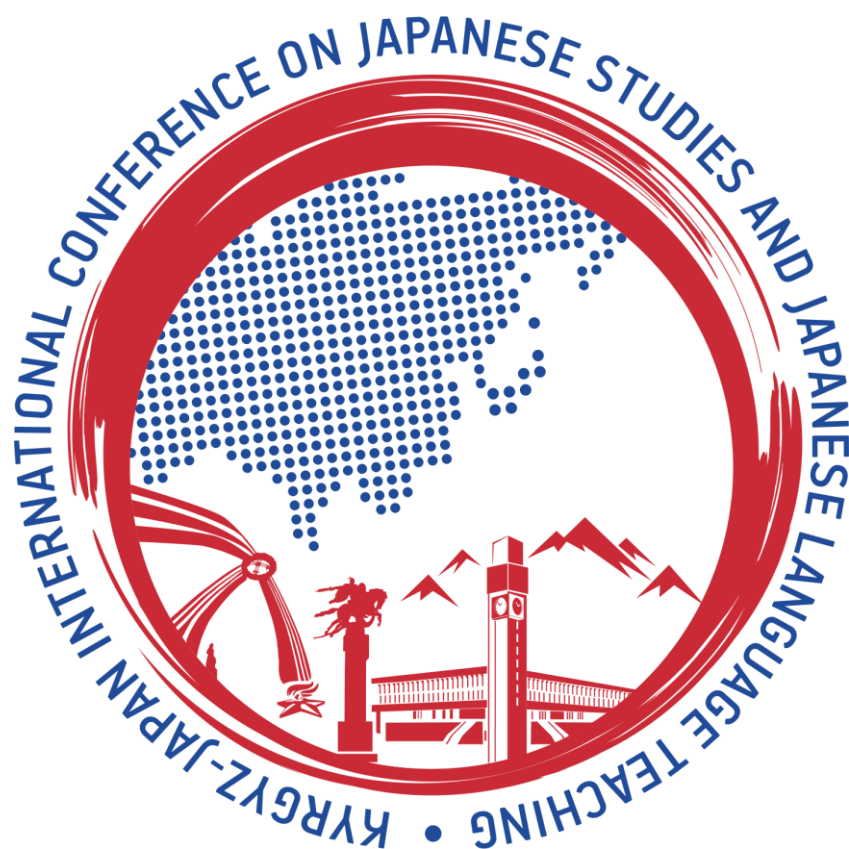




キルギスにおける日本語教育開始 30 周年記念  
日本語教育国際研究大会

2021 年 8 月 21 日 (土)・22 日 (日)

# 発表概要集



主催

キルギス共和国日本語教師会

後援

国際交流基金

## 《目 次》

【口頭発表-1】	「キルギス共和国における日本語教育の歩み」	4-5
①キルギスの日本語教育～30年の歩みと人々～		
.....	ヴォロビヨワ・ガリーナ	4
②キルギスの日本語教育30年に際して		
.....	伊藤 広宣	5
③私の日本語教育		
.....	モルドガジエフ・リスベク	5
【ビデオメッセージを寄せてくれた「日本語卒業生」】	.....	6
【口頭発表-2】	6-8	
⑤キルギス国立総合大学における日本語教育の歴史		
.....	ドゥイショノワ・ナリーザ	7
⑥日本人からキルギスの先生方中心へ～キルギス日本人材開発センターで見た3年間～		
.....	黒岩 幸子	7
⑦Изучение японского языка: опыт и особенности практики		
.....	サマロフ・アイベック	7
⑧中央アジアアメリカ大学における日本語教育		
.....	オモロワ・ディナーラ	8
⑨キルギスにおける国際協力としての日本語教育の在り方を考える		
.....	西條 結人	8
【口頭発表-3】	9-11	
⑩日本語学習者と日本語母話者の雑談におけるインターアクションとラポール構築		
.....	上甲 アリセ民江	9
⑪中央アジアでの日本語教育における母語話者と非母語話者の協働を考える:日本語教師養成 の視点から.....	平畑 奈美	10
⑫日本語とキルギス語の「V1+V2」型複雑述語についての対照研究		
.....	アクマタリエワ・ジャクシルク	10

⑬ロシア語母語話者の聞き取りの特徴と聴解指導における問題点 .....	ミズグリナ・マリア	11
⑭コロナ禍中のカンボジアにおけるオンライン授業の実践報告 .....	クーン ソチア、鬼 一二三	11
【基調講演】		12
学習者の自律を目指した音声指導・学習 .....	中川 千恵子	12
【口頭発表-4】		12-14
⑮聴覚障害のあるキルギス人の手話言語使用状況と言語意識に関する予備的研究 .....	ボロトベック・クズ・サイカル、大杉 豊	13
⑯日本語とキルギス語の男性会話におけるフィラーの機能と役割 .....	ジョルブラコワ・マイラム	13
⑰カイロ大学におけるビデオ教材を用いた反転授業の実践報告 .....	森田 誠亮、マギー・アリ・アブデル・ハディー	14
キルギス共和国日本語教師会案内(連絡先・会報&紀要バックナンバーほか URL).....		14
執筆者一覧 .....		15

## 第1部 口頭発表-1 「キルギス共和国における日本語教育の歩み」

10:30-12:30 (KGT)

	時 間	テーマ・発表
①	10:30-11:00	キルギスの日本語教育～30年の歩みと人々～ ヴォロビヨワ・ガリーナ (キルギス日本語教師会会員)
②	11:00-11:30	キルギスの日本語教育 30年に際して 伊藤 広宣 (筑波大学)
③	11:30-12:00	私の日本語教育 モルドガジェフ・リスベク (キルギス・日本ビジネス協議会)
④	12:00-12:30	キルギス共和国日本語教師会 20年の歩み イシライロワ・ジルディズ (キルギス国立大学附属日本学院)

### ① キルギスの日本語教育～30年の歩みと人々～

ヴォロビヨワ・ガリーナ (キルギス日本語教師会)

2021年9月にキルギス共和国における日本語教育開始30周年になり、本発表でキルギス共和国における日本語教育の歴史の振り返りをしたい。私は1995年からキルギス日本センターで第一期生として日本語を勉強し始めて、その後日本語との出会いのおかげで私の生活は一変した。1998年から同センターの非常勤講師、1999年から専任講師になり、その後日本語教育、日本語教育研究が私のライフワークになった。

1999年にキルギス日本語教師会が創立して最初からの会員になり、2000～2004年に教師会会長を務めた。キルギスにおける日本語教育および日本語研究の礎、発展に直接関与してきて、本大会でキルギスの日本語教育及び学術研究の歴史、大切な出会いについて話したい。

キルギスの日本語教育は多くの人々によってつくられたもので、その一步一步の歩み、貢献した先生方の活動を歴史に残すことは大切で、そのための努力をする必要がある。

## ② キルギスの日本語教育 30 年に際して

伊藤 広宣 (筑波大学)

発表者は、キルギスの高等教育機関で始まった 1991 年 9 月から 27 年間キルギスの日本語教育に携わる（現キルギス国立総合大学、現ビシケク国立大学、現キルギス国立大学、キルギス・ロシア教育アカデミー等）

本稿は、キルギスの高等教育機関における 1990 年代前半の日本語教育事情を主に振り返り、当時の日本語教育機関の設立や改編、日本語教育に携わった教員たちの紹介などかいつまんで報告。

2000 年以降、安定してキルギスにおける日本語教育が発展してきたことに触れ、長年日本語教育をされてきた日本語教員たちの紹介。

今後の更なる日本語教育の発展を心より願う。

本稿（発表）の補足として、キルギスの日本語教育の私の経験・分析等は、2017 年に発行されたガリーナ・ヴォロビヨワ先生との共著「人生をかけた日本語教育」の日本語版、ロシア語版が、インターネットにて掲載されていることを紹介。

---

## ③ 私の日本語教育

モルドガジエフ・リスベク (キルギス・日本ビジネス協議会)

もうかなり昔のことになりますが、キルギスがまだソ連邦の一共和国であった 1989 年にビシケク市で夜間の私立日本語コースが開設された当時を思い出します。コースで教鞭を取られたのは、日本研究の「長老」お二人、イサク・ミハイロヴィッチ・アクセンロード先生とアレクサンドル・ペトロヴィッチ・パク先生でした。当時この国では日本語の教材も参考書も手に入らなかったため、日本語習得を渴望していた私たち受講生は先生が黒板に書いていかれることを一つも漏らすまいと、すべてノートに書き写しておりました。また、キルギスに日本語ネイティブがいない時代だったので、受講生どうしが互いに日本語で会話練習したものです。

あれから 30 年近い時を経た今、私はいい意味で日本語学習者や日本語の先生をうらやましく思います。それは、日本留学等を含めて、日本語学習者が以前とは比べものにならないほど勉学の機会に恵まれているからです。

## ビデオメッセージを寄せてくれた「日本語卒業生」

	氏 名	所 属
1	スバゴジョエワ・アセリ	JICA 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所、キルギス語・ロシア語講師
2	ナザルマンベトワ・アセーリ	株式会社ワールド・ビジネス・アソシエイツ、コーディネーター
3	ベクトウルスノフ・ミルラン	北海道大学 大学院 文学院 博士後期課程
4	オムラリエワ・アイムジャン	キルギス共和国立科学アカデミー 地震学研究所地震災害評価研究室、地質学・鉱物学博士候補(PhD)
5	イスマノフ・ヌルガズイ	セントラルコンサルタント社、プロジェクト・コーディネーター
6	ハサノフ・ナイリヤ	フリーランス翻訳者
7	アバキロフ・アジズ	株式会社《Unique Technologies》、社長
8	バキット・クズ・アイペリ	キルギス国立大学附属日本学院(2021年卒業)、2021年キルギス共和国日本語弁論大会優勝者
9	アサナリエフ・アスルベク	喜元門ラーメン サイエンス大通り店(茨城県つくば市)、社長

## 第 2 部 口頭発表-2

13:30-16:30 (KGT)

	時 間	テーマ・発表
⑤	13:30-14:00	キルギス国立総合大学における日本語教育の歴史 ドゥイショノワ・ナリーザ (キルギス国立総合大学)
⑥	14:00-14:30	日本人からキルギスの先生方中心へ ～キルギス日本人材開発センターで見た3年間～ 黒岩 幸子 (2021/6 まで国際交流基金日本語上級専門家・モスクワ市立教育大学)
⑦	14:30-15:00	<b>Изучение японского языка: Опыт и особенности практики</b> サマロフ・アイベック (キルギス国立大学附属日本学院)
⑧	15:00-15:30	中央アジアアメリカ大学における日本語教育 オモロワ・ディナーラ (中央アジアアメリカ大学)
⑨	15:30-16:00	キルギスにおける国際協力としての日本語教育の在り方を考える 西條 結人 (四国大学)

## ⑤ キルギス国立総合大学における日本語教育の歴史

ドゥイショノワ・ナリーザ （キルギス国立総合大学）

キルギス共和国では日本語高等教育はキルギス国立総合大学で、初めて1991年の9月より始まる。そのときから当大学でいろいろな学部や大学附属東洋リツェイなどで教えられてきている。また、1995年からキルギス日本センター、2003年からキルギス日本人材開発センターは、キルギス国立総合大学をカウンターパート機関とし、JICAの技術協力プロジェクトとして協力しています。現在、大学で日本語は主専攻と第2外国語として教えられている。

---

## ⑥ 日本人からキルギスの先生方中心へ ～キルギス日本人材開発センターで見た3年間～

黒岩 幸子 （モスクワ市立教育大学(2021/6まで)）

報告者は2010年01月24日～2013年03月31日の間、国際交流基金よりキルギス日本人材開発センターに派遣され、活動を行った。当時は、JICA日本センタープロジェクト（フェーズ2）の終了時の「現地化」「自立化」時へ向け、日本人が力を出す時代からキルギスの先生方中心へと移行する時期であった。キルギスの日本語教育の30年間の中で、報告者の活動期間はどんな時期にあたるか、当時の写真などもあわせ振り返る。

---

## ⑦ Изучение японского языка: Опыт и особенности практики

サマロフ・アイベック （キルギス国立大学付属日本学院）

---

## ⑧ 中央アジアアメリカ大学における日本語教育

オモロワ・ディナーラ (中央アジアアメリカ大学)

中央アジアアメリカ大学 (AUCA) は、1993年に設立され、キルギスで有数の大学の1つである。日本語は選択科目として教えられている。日本語に対する学生の関心は非常に高い。このコースを選ぶと、学生は言語だけでなく、日本の歴史、文化なども学ぶ。日本語能力試験 (JLPT) に参加したり、日本語弁論大会にも積極的に参加したりする。

中央アジアアメリカ大学は、キルギスと日本の学生交換プログラムを実施している。

---

## ⑨ キルギスにおける国際協力としての日本語教育の在り方を考える

西條 結人 (四国大学)

報告者は、2015年10月から2017年10月まで独立行政法人国際協力機構 (JICA) 青年海外協力隊 (現 JICA 海外協力隊) の一員として、ビシケク人文大学 (現ビシケク国立大学) に配属された。在任中は、ビシケク人文大学にて日本語授業の実践を行うとともに、現職教員の研究サポート (チームティーチング、研究指導、教材開発等)、キルギス共和国日本語教師会では日本語弁論大会や日本語教育セミナー等の活動に取り組んだ。

本発表では、報告者と同僚日本語教師や学習者とのやり取りや、協力隊隊員の報告資料等の文献資料の分析を通して明らかになったキルギスにおける日本語教育の課題を報告するとともに、日本語を通じてキルギスから世界へ「発信」することを中心とした取り組みを紹介する。これらを踏まえて、キルギスにおける国際協力としての日本語教育の今後について展望を述べる。

---



### 第3部 口頭発表-3

10:00-12:30 (KGT)

	時 間	テーマ・発表
⑩	10:00-10:30	日本語学習者と日本語母話者の雑談における インターアクションとラポール構築 上甲 アリセ民江 (ブラジリア大学)
⑪	10:30-11:00	中央アジアでの日本語教育における 母語話者と非母語話者の協働を考える:日本語教師養成の視点から 平畑 奈美 (東洋大学)
⑫	11:00-11:30	日本語とキルギス語の「V1+V2」型複雑述語についての対照研究 アクマタリエワ・ジャクシルク(新潟大学・日本学術振興会特別研究員)
⑬	11:30-12:00	ロシア語母語話者の聞き取りの特徴と聴解指導における問題点 ミズグリナ・マリア (モスクワ市立教育大学)
⑭	12:00-12:30	コロナ禍中のカンボジアにおけるオンライン授業の実践報告 クーン ソチア、鬼 一二三 (カンボジア国際日本文化学園)

#### ⑩ 日本語学習者と日本語母話者の雑談における インターアクションとラポール構築

上甲 アリセ民江 (ブラジリア大学)

外国語として日本語を学ぶ学習者に対する会話教育の目標は、日本人との実際の接触場面において適切な言語行動ができるというインターアクション能力を養成することである。日本語の構文や語彙の習得はできているのに、来日して日本人の会話に入っていけなくて、友達ができなかったという学習者の話はよく耳にすることである。このような問題が起こる背景には、学習者が日本人のコミュニケーション・スタイルの規則性を把握していないことが挙げられる。そこで、本研究では対象となるブラジル人日本語学習者の日本語での雑談と日本語母語話者の雑談におけるラポール形成をポライトネス論の視点から分析し、日本語での円滑なインターアクションの障害となる要素の解明を試みた。結論として、異文化間のインタラクティブ・イベントを成功させるためにはコミュニケーションの語用論的能力の習得に焦点を当てた教授法の開発が重要であることが明らかとなった。

## ⑪ 中央アジアでの日本語教育における 母語話者と非母語話者の協働を考える：日本語教師養成の視点から

平畑 奈美 (東洋大学)

日本国外で行われる日本語教育に従事する教師の4分の1程度が、日本語母語話者であるとされる。現地での教師養成が難しい中央アジアのような環境では特に、その比重が高くなる傾向がある。また中央アジアの場合、母語話者教師は養成を終えて日の浅い若手であることも多い。つまり彼/彼女らは、即戦力として任にあたらなければならないにもかかわらず、現地状況に不慣れで経験も乏しいというギャップに直面する。この問題を解消するためには、現地の非母語話者教師との協働が鍵となる。

今回は、発表者がこれまで各地で行ってきた調査に基づき、非母語話者日本語教師との協働に際して母語話者教師に望まれる資質能力の概要をまず示す。その上で、現在日本で進んでいる日本語教師養成制度変革の動きに言及しつつ、今後中央アジアの日本語教育推進にあたる若手日本語教師の養成について、課題を整理する。

---

## ⑫ 日本語とキルギス語の「V1+V2」型複雑述語についての対照研究

アクマタリエワ・ジャクシルク (新潟大学・日本学術振興会特別研究員)

本発表では、日本語とキルギス語の「V1+V2」型複雑述語について調査・考察する。従来の研究では、両言語における「V1+V2」型複雑述語の存在は既に指摘されているが、日本語とキルギス語の対照研究はされていない。日本語を学習しているキルギス語母語話者、或いはキルギス語を学習している日本語母語話者は、両言語の「V1+V2」型複雑述語を学習する際に、母語にある用法をそのまま当てはめて使ってしまったら、誤用が生じる可能性が考えられる。本発表では両言語における「V1+V2」型複雑述語について実例を用いて具体的かつ実証的に検討することを目的とする。その際、日本語とキルギス語の「V1+V2」型複雑述語の対照の1つとして対応関係の整理を目指す。また、動詞の自他の対応関係、意味的対応関係にも言及する。

---

### ⑬ ロシア語母語話者の聞き取りの特徴と聴解指導における問題点

ミズグリナ・マリア (モスクワ市立教育大学)

ロシアにおける日本語教授法で聴解は主な問題のひとつである。ロシア語母語話者にとって聞き取りにくいパターンがいくつかあります。ロシア語母語話者の学習者の聴解力を伸ばすために聞き取りにくいパターンをグループに分けて、そのグループごとの練習を作ることは適切なポイントである。一つ目のグループは音声、語彙、文法などの言語問題で、二つ目のグループは社会文化の認識だと思われる。知覚を妨げる例としては音声の違いは長音、促音、撥音、リズム、アクセント、イントネーションなどで、語彙の難しいポイントは外来語や同音異義語などだと思われる。文法の問題は語順の違いや省略など、社会文化的な理解しにくいポイントは曖昧な表現や授受表現などだ。

---

### ⑭ コロナ禍中のカンボジアにおけるオンライン授業の実践報告

クーン ソチア、鬼 一二三 (カンボジア国際日本文化学園)

コロナ禍の影響を受け、学習環境が最悪となったカンボジアでは日本語学習者数が減少し続けている。全国の教育機関は閉鎖したままであり、セミナー、ミーティング、様々な授業がズームを使用して行われるのが一般的となった。日本語能力試験は願書の受付が行われたにも関わらず、昨年7月以降3回続けて見送られており、学習意欲の低下が否めない。

カンボジアでは教師も学習者もコンピュータ所持者が少なく、デバイスは主に中古のスマートフォンが使われている。電子メールによるやり取りも一般的ではない。普及しているフェイスブックメッセンジャーかテレグラムにズームのリンクや問題を送信し、オンライン授業をしている教師が多く、授業が一方通行になりがちである。

昨年はスピーチコンテストなどが軒並み中止となったが、主催者側が工夫を始め、また学習者がオンライン授業に慣れてきたこともあり、ライブ配信などにより一部再開できるようになった。

---

# 基調講演

13:00-14:30 (KGT)

## 学習者の自律を目指した音声指導・学習

中川 千恵子 (國學院大學)

声を出して伝える行動の一部が発音です。発音練習の時間がない、あるいは、練習方法がわからないという人は多いようです。発音練習の目標は、まず、聞き手にとってわかりやすく聞きやすい発音と考えてみましょう。そのために必要な練習方法を提案します。具体的には、会話練習や口頭発表練習の中に発音練習を組み込むことです。

学習者自身の自律も大切です。発音を直されるのは嬉しくないことです。入門期に、しっかり発音知識を学習し、あとは、学習者に任せましょう。また、効果が表れにくく、楽しくない方法を続けるのも難しいです。続けられる方法を学習者自身に選んでもらえるような学習環境作りが大切です。

学習者自身も教師も続けられる方法を提案します。スラッシュ・リーディング (フレージング) 練習法と ICT を活用した方法 (「オンライン日本語アクセント辞書 OJAD」と「つたえるはつおん」など) を簡単に紹介します。

---

## 第4部 口頭発表-4

14:30-16:00 (KGT)

	時 間	テーマ・発表
⑮	14:30-15:00	聴覚障害のあるキルギス人の手話言語使用状況と 言語意識に関する予備的研究 ボロトベック・クズ・サイカル (筑波技術大学 大学院 修士課程) 大杉 豊 (筑波技術大学)
⑯	15:00-15:30	日本語とキルギス語の男性会話におけるフィラーの機能と役割 ジョルブラコワ・マイラム (キルギス国立総合大学)
⑰	15:30-16:00	カイロ大学におけるビデオ教材を用いた反転授業の実践報告 森田 誠亮、マギー・アリ・アブデル・ハディー (カイロ大学)

## ⑮ 聴覚障害のあるキルギス人の手話言語使用状況と 言語意識に関する予備的研究

ボロトベック・クズ・サイカル（筑波技術大学大学院修士課程）

大杉 豊（筑波技術大学）

ボロトベック・クズ・サイカルのビシケク国立大学学部卒業研究では、キルギスでは聴覚障害のある国民への教育の保障が十分になく、手話言語の専門家が不在で、手話通訳者養成の基礎となる手話言語の講習会さえ開催されていないなどキルギス共和国の課題を明らかにした。現在取り組んでいる研究では、キルギスで聴覚障害のある国民が手話言語の重要性に気づき、行動を起こすためのエンパワメント支援のあり方を検討している。

具体的には、キルギスにおいて聴覚障害のある国民を対象に日本や米国などの手話言語の講習会を実施することで、キルギス人の手話言語に対する意識を高める方策が考えられる。

今回は、聴覚障害のあるキルギス人を対象に実施している紙アンケート調査の結果から、彼らのキルギス及び外国の手話言語の使用状況、言語意識を考察する。

---

## ⑯ 日本語とキルギス語の男性会話におけるフィラーの機能と役割

ジョルブラコワ・マイラム（キルギス国立総合大学）

日本語とキルギス語の男性同士の会話の中で、フィラー（日本語：「ウン」「ソウ」「ネ」等、キルギス語：Аа、А、Э э、М м м 等）がどのような役割と機能を果たしているのかを調べるために、日本語母語話者同士、キルギス語母語話者同士、日本語母語話者とキルギス人日本語学習者、キルギス語母語話者と日本人キルギス語学習者の4組の会話を分析した。

その結果、日本語母語話者同士の会話において、フィラーの出現頻度が一番高いことがわかった。その要因は、日本語母語話者は、相手の心情を考慮しながら、発話を和らげているからである。母語の違いによって、どのようなフィラーの特徴があるのか考察する。また性差によるフィラーの出現頻度や種類に違いがあるかも調べるために男性同士の会話と女性同士の会話も比較し、検証する。

## ⑰ カイロ大学におけるビデオ教材を用いた反転授業の実践報告

森田 誠亮、マギー・アリ・アブデル・ハディー（カイロ大学）

本報告は、2021年3月から6月末までの2020年度後期において、カイロ大学文学部日本語・日本文学科の1年生を対象に行った「ビデオ教材を用いた反転授業」の実践報告である。2020年度前に2年生を対象に行った「反転授業」で見えた課題をできる限り解消した形で行った。「反転授業導入に至った経緯」、「反転授業とこれまでの授業の違い」、「それに対する学習者・エジプト人教師の反応」、「ビデオ教材、共有方法についての学習者反応（従来の予習との違い）」「今後の課題」について述べる。アラビア語による文法解説ビデオが完成することにより、担当教師の違いによる説明力の差の解消、学習進度の速さから日本語学習を諦めてしまう学習者の減少が期待でき、将来的にはアラビア語圏以外の国におけるビデオ教材導入の際の一助となることを期待する。

---

KAJLT キルギス共和国日本語教師会



キルギス共和国日本語教師会事務局 E-mail: [kajlt.jimukyoku@gmail.com](mailto:kajlt.jimukyoku@gmail.com)

KAJLT HP <http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com>

ウィキペディア <https://ja.wikipedia.org/wiki/キルギス共和国日本語教師会>

Facebook [https://www.facebook.com/JLteachers.association.KR?ref=aymt\\_homepage\\_panel](https://www.facebook.com/JLteachers.association.KR?ref=aymt_homepage_panel)

<http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/バックナンバー/>

会報バックナンバー [https://www.evernote.com/pub/tm0y/kyrgyz\\_vestnik](https://www.evernote.com/pub/tm0y/kyrgyz_vestnik)

賛助会事務局 E-mail: [kyoshikai.sanjokai.jimukyoku@gmail.com](mailto:kyoshikai.sanjokai.jimukyoku@gmail.com)

## 執筆者一覧（掲載順、敬称略）

氏 名	所 属
ヴォロビヨワ・ガリーナ	キルギス日本語教師会
伊藤 広宣（いとう・ひろのり）	筑波大学
モルドガジエフ・リスベク	キルギス・日本ビジネス協議会
イシライロワ・ジルディズ	キルギス国立大学附属日本学院
ドゥイショノワ・ナリーザ	キルギス国立総合大学
黒岩 幸子（くろいわ・さちこ）	モスクワ市立教育大学（～2021/6）
サマロフ・アイベック	キルギス国立大学附属日本学院
オモロワ・ディナーラ	中央アジアアメリカ大学
西條 結人（さいじょう・ゆうと）	四国大学
上甲 アリセ民江（じょうこう・たみえありせ）	ブラジル大学
平畑 奈美（ひらはた・なみ）	東洋大学
アクマタリエワ・ジャクシルク	新潟大学・日本学術振興会特別研究員
ミズグリナ・マリア	モスクワ市立教育大学
クーン・ソチア	カンボジア国際日本文化学園
鬼 一二三（おに・ひふみ）	カンボジア国際日本文化学園
中川 千恵子（なかがわ・ちえこ）	國學院大學
ボロトベック・クズ・サイカル	筑波技術大学 大学院 修士課程
大杉 豊（おおすぎ・ゆたか）	筑波技術大学
ジョルブラコワ・マイラム	キルギス国立総合大学
森田 誠亮（もりた・みつあき）	カイロ大学
マギー・アリ・アブデル・ハディー	カイロ大学

## キルギスにおける日本語教育開始 30 周年記念 日本語教育国際研究大会

# 発表概要集

編集

キルギス共和国日本語教師会

「キルギスにおける日本語教育開始 30 周年記念日本語教育国際研究大会」実行委員会

2021 年 8 月発行